

中学校道徳副読本における福祉問題

上 續 宏 道

1. はじめに

2006（平成18）年に公示された改正教育基本法では、第一条の教育の目的を「人格の完成」とし、第二条では、その目的を重視するための目標として従来の内容に加え、新たに公共の精神に基づき、①社会の形成に参画すること、②生命や環境を大切にすること、③伝統と文化を尊重し、我が国や郷土を愛するとともに他国を尊重し、国際社会の平和や発展に寄与する態度を養うこと、などが規定され、また、従来からの「生きる力」の概念の共有が据えられている。

教育基本法の改正に伴う学校教育法の一部改正により改訂された2008（平成20）年度の学習指導要領では、これからの社会の変化に対応し、豊かな心をもち、たくましく生きる生徒の育成を目指してこれまでの内容の再構成を行い、重点化することとなった。

道徳教育の目標は、こうした教育基本法や学校教育法に定められた基本理念に基づいており、社会福祉の発展の思想基盤ともなるヒューマンズムの思想にも通じる人間尊重の精神をその基盤としている。こうした教育基本法による人格の完成に向け、道徳教育が学校での各教科、総合的な学習の時間及び特別活動などの教育活動全体を通し、生徒の発達の段階を考慮して指導することとなっている。

このような方向性の中で、2008（平成20）年1月の中央教育審議会答申においても、道徳教育の改善、充実に向け、発達の段階や社会との関わりの広がりなどの子ども達の実態や指導上の課題をふまえ、学校や学年の段階ごとに、取り組むべき重点を明確にし、効果的な指導が行われるようにすることが必要であるとされている。つまり、社会規範自体が大きく揺らぐといった社会の大きな変化や、家庭や地域の教育力の低下、親や教師以外の地域の大人や異年齢の子ども達との交流の場や自然体験等の体験活動の減少などを背景として、①生命尊重の心や自尊感情が乏しいこと、②基本的生活習慣の確立が不十分、③規範意識の低下、④人間関係構築力や集団活動を通した社会性の育成が不十分、といった福祉的課題も指摘され、子どもの自立心や自律性、生命を尊重する心の育成を、いずれの段階でも共通する重点としつつ、こうした課題に対応し、学校や学年段階ごとに取り組むべき方向性が示されている。

生徒の心身の発達については、家庭や社会環境、生活様式の変化による影響が大きく、個人差もあるが、思春期を迎える中学生は様々な葛藤や経験から自らを見直す重要な時期ともいえる。社会福祉の視点からも教育による福祉サービス利用者としての主体的な社会資源に関わる姿勢や態度の涵養、利用者支援のための資源の整備や開発に向けた、あるいは異なる他者に対する思いやりなど、心のあり方や人間性の開発が求められる。

「福祉国家の再建が求められる今日、人間の価値を創造する道徳的社会としての福祉国家の

観念が不可欠である」⁽¹⁾とされるが、本論ではそうした視点をふまえ、中学生向けの道徳副読本における福祉問題に関して取り扱われている内容について取り上げ、その現状と課題について論じる。

2. 中学校における道徳教育と福祉問題

道徳は社会秩序を維持するための社会規範である。広辞苑によれば、「ある社会で、その成員の社会に対する、あるいは成員相互間の行為の善悪を判断する基準として、一般に承認されている規範の総体」とされている。⁽²⁾ 道徳を意味する英語のmorality、独語のsittlichkeitは、慣習・習俗を意味し、単なる心構えのような観念的なものではなく、慣習や習俗と不可分な社会規範とされている。法制度も道徳と共に社会秩序を維持するための社会規範であるが、これらは道徳のような個々自らの良心によって自主的に守られるものではなく、一般的には政治権力によって強制力を伴いつつ守られるという性格をもつ。

また、戸坂潤は道徳の二つの契機について「道徳の習俗性（ジットリッヒカイト）」と「道徳の心情性（ゲミュート）」と呼び、道徳は「一身上の真理」と述べている。⁽³⁾ 彼によれば社会規範としての道徳は自分自身がどうしてもそうせざるをえない重大な意味を持つ「一身上の真理」でもある。

文部科学省の学習指導要領では、中学校の道徳教育について、(1)人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培う、(2)豊かな心をはぐくむ、(3)伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図る人間を育成する、(4)公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努める人間を育成する、(5)他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献する人間を育成する、(6)未来を拓く主体性のある日本人を育成する、(7)その基盤としての道徳性を養う、をその目標とする。⁽⁴⁾ (6)にいう道徳性については、道徳的心情、判断力、実践意欲と態度などから成り立っている。

また、こうした学習指導要領に基づけば、道徳性にはそれぞれの人間の中に形成され、道徳そのものに結びつく規範意識や、道徳副読本の指導内容にもなっている「勇気」「節度・節制」といった人間としての卓越した性質を内容に含むこととなる。

さらに道徳の目標は教育基本法や学校教育法に定められた教育の根本精神に基づいているが、その中でも「主体性」の文言が用いられている。いわば、自ら考え、自らの良心に従って行為する自律的人間像が、道徳の目標概念として明確化することとなり、主体的人間像を求めている。また同時に、「生命に対する畏敬の念」の文言が用いられている。いじめ、自殺、環境汚染や自然破壊など、生命に関わる様々な課題に対し、生命の意味について考え、生命との関わりを通した自らのあり方や生き方、人間を超えた大いなるものへの畏れや敬意が強調されている。

そして自分でものごとを考え、自分の意志で行動を決断することができるためには、「道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深める」⁽⁵⁾ こととされているが、価値判断が主体的にできる能力と、それによって自主的に行動できる実践力が重視されなければならない。そうした視点から、道徳教育は生徒達に「してはいけないことと、しな

なければならないこと」について、身につけさせるべく展開されることとなる。

学習指導要領では、道徳の内容項目について、小学校低学年で16、中学年では18、高学年で22とされ、学年が上がるにしたがって増加し、中学校ではその土台の上に高校までの発達段階を視野に入れつつ、24項目とされている。その中学校の道徳教育の内容について「主として自分自身に関すること」として「自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ」、「自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する」、「主として他の人とのかかわりに関すること」として「温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ」、「それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容の心をもち謙虚に他に学ぶ」、「多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえる」、「主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること」として「生命の尊さを理解し、かけがえない自他の生命を尊重する」、「人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きることの喜びを見いだすように努める」があげられている。

山口充は、「われわれ人間は、個々の生死をはるかに超えた大いなる生命の次元に覚醒するとき、自分の生とはなにか『大いなる力』によって支えられていることを実感するにちがいない。その力を、ある人は神の意志、神の計画、仏のはからいとして受け取り、ある人は自然の摂理、宇宙の摂理として受け取るであろう」⁽⁶⁾と指摘するが、学習指導要領での生命尊重、ひいては生命の畏敬の念、「畏れ」、「敬う」という人間の力を超えた大いなるものへの念は、宗教的転回の意味もはらんでいる。さらに、「主として集団や社会とのかかわりに関すること」として、「法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める」、「公德心及び社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める」、「正義を重んじ、だれに対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める」、「勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める」、「父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く」、「地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める」、「世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する」など、福祉の盛衰にもかかわる生徒の生命尊重や規律ある生活、法やきまりの意義の理解、社会への参画、国家や社会における自己の今後のあり方や生き方、さらには、人間関係や環境の調整など、道徳的实践力を育てるための内容が盛り込まれている。⁽⁷⁾

さらに、道徳の意義として、道徳が「『自律』や『自由』を前提にしているのは、もともと道徳的行為が自らの意志によって決定された責任ある行為を意味している」⁽⁸⁾こと、「人と人との関係の中での望ましい生き方を意味している」⁽⁹⁾こと、「人間社会の中で人間らしく生きようとする生き方という意味をもっている」⁽¹⁰⁾こと、「『人生いかに生きるべきか』という生き方の問題と言いかえることができる」⁽¹¹⁾こととしている。

このことは道徳の時間において「人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的实践力を育成するものとする」⁽¹²⁾との意義を解説したものとして重要である。

道徳的行為が行われる際に例えば「親切」な行為をする時、①相手の行動や表情などを通して、彼の置かれている状況や気持ちなどを感じることでできる共感能力、②相手の置かれている状況を的確に把握し、どうすればその状況から救えるか判断できる知的能力、③その判断に従って相手と周囲の人々との関係を調整する組織的能力、④その判断に従って事態を具体的に適切に処理することができる性格と技術的能力（ねばり強さ、勇気、生活技術など）、⑤価値意識、⑥規範意識などが求められる。⁽¹³⁾

こうした中で我々は、生活の中で追求しているさまざまな事柄についての認識をもちつつ、社会的関係と、社会の中での自己の行動や実践を通じて道徳を考察することとなる。

宮脇陽三は、道徳を三つの事柄に関係するとし、①個人間の公平な処理と調和に関係した事柄、②各個人の内部で整理したり調和させたりすることに関係した事柄、③全体としての人間生活の一般的な目的に関係した事柄、をあげ、社会福祉についての認識も、こうした究極的な目的や意味についての認識がなければ、適切に自ら行動することはできないとする。⁽¹⁴⁾

そのような意味で、道徳は、人間の社会性や社会福祉、人間の尊重に価値をおいているものと考えられる。

岡村重夫は、社会福祉の固有の視点として、個人と社会制度との関係を社会関係としてそれを生活の本質的な条件とし、社会的存在としての人間にとって必然的な社会生活上の基本的要求として7つをあげ、その中の1つとして社会に具体的にかかわったり、自らのもっているものを発揮するための社会参加や、社会的協同の機会の保障を挙げているが、それを充足させるために個人はそれぞれにふさわしい社会制度を利用しなければならないとする。

この社会参加ないし社会的協同に対応する社会制度として、司法、地域社会とならんで道徳を位置付けている。⁽¹⁵⁾

それによれば、個々人それぞれの存在や生活が立ち行くように、一定の価値判断の下で、利己的衝動、衝動的行動を控えつつ自身の欲求と知性との総合作用の中で社会的関係、社会制度との関係においても、今後の道徳の基礎となり、社会福祉でも尊重される主体的に自らの意志で考え決定し、行動するという能力を開発することが求められる。

また、青少年の道徳性の適切な発達を図る上では、福祉的な見方や考え方についての理解が必要となる。岡村はさらに、社会関係の調和には個人が現実に取り結ぶ社会関係の総体としての生活の全体、生活の全体性を認識することを社会福祉援助の原理の1つとしてあげているが⁽¹⁶⁾、道徳的課題が人間生活の全体を見据え、その本質と目的についての背景の中で解明されていくことも軌を一にするものと考えられる。

3. 道徳副読本の捉え方と福祉問題

(1) 学習指導要領に基づく捉え方

1958（昭和33）年、「道徳」が特設され、現在に至るまで、その教材・資料についても、各出版社や行政機関、関係団体ごとに様々なものが出されてきた。その副読本については、読み物資料を中心に出版され、地域の独自性をふまえた掲載内容のものもある。

道徳の時間に生かす教材としては、ア、人間尊重の精神にかなうもの、イ、ねらいを達成する

のにふさわしいもの、ウ、生徒の興味や関心、発達に応じたもの、エ、多様な価値観が引き出され深く考えることができるもの、オ、特定の価値観に偏らない中立的なもの、であること、さらには、ア、生徒の感情に訴え、感動を覚えるようなもの、イ、人間の弱さやもろさに向き合い、生きる喜びや勇気を与えられるもの、ウ、生や死の問題、先人が残した生き方の知恵など人間としてよりよく生きることを意味を深く考えることができるもの、エ、体験活動や日常生活等を振り返り、道徳的価値の意義や大切さを考えることができるもの、オ、悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題について深く考えることができるもの、カ、多様で発展的な学習活動を可能にするものまであり、以上を教員の教材選択の際心掛けることとしている。⁽¹⁷⁾

(2) 副読本の位置付け

中学校の道徳においても、教科としての位置付けはなされておらず、検定教科書は存在しないため、各出版社や行政機関、関係団体から出されている副読本を教科書に準じる図書として使用している。

副読本の意義については、「主となる教科書にそえて、補助的に用いる学習書」、⁽¹⁸⁾「正規の教科書のほかに、それとならんで学校教育に有意義なものとして用いることのできる図書」⁽¹⁹⁾とされている。

学校教育の現場でも小学校と同様に、中学校においても学校教育法第34条第2項で規定するように「教科用図書以外の図書その他の教材で、有益適切なものは、これを使用することができる」⁽²⁰⁾とされ、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第33条第2項の規定では、副読本を使用する場合、所轄の教育委員会への届出をしたり、承認を受けることとなっている。⁽²¹⁾

中学校道徳副読本については以下の業者（団体）より出版されている。ただし、業者（団体）によっては近畿版など地方版として出版しているものを含んでいる。

- ・愛知県教育振興会 『道徳 明るい人生1－3』
- ・学研『中学生の道徳1年－3年 かけがえのないきみだから』
- ・東京書籍『中学道徳1－3 明日をひらく』
- ・光村図書『中学道徳 きみがいちばんひかるとき①－③』
- ・新学社『中学生の道徳 私たちの新しい生き方①－③』
- ・廣済堂あかつき『中学生の道徳1 自分を見つめる』
『中学生の道徳2 自分を考える』
『中学生の道徳3 自分をのばす』
- ・日本文教出版『中学生道徳 あすを生きる1－3』
- ・日本文教出版『中学道徳 生きる力1年－3年』
- ・日本標準『中学生 みんなで生き方を考える 道徳1－3』
- ・教育出版『中学道徳 心つないで1－3 Heart to Heart』
- ・日刊企画『中学生の新しい道1－3』
- ・静岡教育出版社『静岡県道徳副読本中学 心ゆたかに1－3』
- ・京都府教育委員会『京の子ども 明日へのとびら』

(3) 福祉問題に関する取り扱い内容

上記の各業者（団体）より出版された中学校道徳副読本を収集し、福祉問題に関する、あるいはそれになりうると考えられる内容について調査し、各業者（団体）別に表3-1のようにまとめた。さらに、それらの指導内容について表3-2のように分類しまとめた。

表3-1 業者別道徳副読本福祉問題取り扱い内容一覧

・愛知県教育振興会

書名	学年	主題	指導内容	概要	掲載箇所	備考
道徳 明るい人生 1	1	重油回収作業	4-(5) 勤労、社会奉仕、公共心	福井県美浜町の重油回収作業のボランティアに積極的に参加し、多くの事を学び得る父と息子の姿。	p.p.93-95	
		わたしは何のために生きているの	3-(1) 生命の尊重	せき髄小脳変性症で25歳で亡くなった木藤亜也さんと母親の朝香さんとのかけがえない生命を精一杯生きようとする姿勢ややりとり。	p.p.96-100	
		一九九五年一月十七日	2-(2) 人間愛、思いやり	阪神淡路大震災で倒壊した家屋から母親と若者、周囲の人々が赤ん坊を救い出す、相互の助け合いの姿や思いやり。	p.p.126-129	
		わが街	4-(8) 郷土愛	街の清掃ボランティア活動を通じ、地域の一員としての自覚を深める中学生の明子の姿。	p.p.130-134	
道徳 明るい人生 2	2	うちの総理ちゃん	3-(1) 生命の尊重	脳梗塞で寝たきり生活から回復した父と彼を支えた家族達の感じる生命の重さ。	p.p.2-5	
		一人じゃないよ	1-(3) 自律の精神、自主、誠実、責任	クラスでいじめにあった私といじめられそうになったAさんとが、先生や親、クラスメイトにそのことを勇気を持って話し、クラスからいじめを無くさせた話。	p.p.6-8	
		温かい笑顔を忘れずに	4-(5) 勤労、社会奉仕、公共心	授産所でのボランティア活動での知的障がい者との関わりから多くの人々の役に立とうとするわたしの姿。	p.p.22-25	「授産所」の記述
		あふれる愛	4-(10) 国際理解、人類愛	カルカッタの貧民のために死を待つ人の家を作ろうと奔走するマザー・テレサの姿。	p.p.72-76	
		「親切」のできなかった日	1-(5) 向上心、個性の伸長	松葉杖をついている人をサポート出来なかった経験から「いい子ぶる」ことの勇気の無さがいじめへもつながること、ハンディを負う人を特別の目で見るということへのわたしの後悔や反省の心。	p.p.132-134	
道徳 明るい人生 3	3	かやま 加山さんの願い	4-(5) 勤労、社会奉仕、公共心	知り合いの佐藤さんの孤立死をきっかけに、訪問ボランティアをはじめた加山さんが、訪問先の田中さんや中井さんとの出会いから、活動のあり方やその姿勢について考えている様子。	p.p.11-15	
		今、輝いて生	1-(2)	筋肉性難病で寝たきりの由美が英検二級に	p.p.101	

中学校道徳副読本における福祉問題

	きる	目標の実現、希望と勇気、強い意志	合格し、意欲的に目標に向かって努力する姿。	p.105	
	六千人のビザ	4－(10) 国際理解、人類愛	第二次世界大戦時、ポーランドからナチスの手を逃れて日本通過のビザを要求しているユダヤ人に領事の権限で発行し、多くの人を救った杉原千畝の決意と行動。	p.p.120-125	
	ぼくの夢	4－(3) 正義、公正・公平	聴覚障がい者の両親の下に生まれたぼくが癌で43歳で亡くなった母の遺言や父の思い、腹痛で入院した聴覚障がい者のおばと病院の先生とのコミュニケーションを取るための手話を通じた通訳の経験等から、人と人との心をつなぐ手話通訳者になろうとする姿。	p.p.136-139	「聴覚障がい者」の記述

・学研

中学生の道徳1年 かけがえのないきみだから	1	ふと目の前に	2－(5) 個性の尊重、寛容・謙虚	『屋根の上のヴァイオリン弾き』を熱演する森繁久弥氏と、一番前で観覧していた全盲の若い女性との心の交流。	p.p.37-39	
		りようふう 涼風	2－(2) 人間愛、思いやり	混雑する電車内での座席の譲り合いのやりとりを通じ、すがすがしい気持ちになる啓次の姿。	p.p.61-63	
		午後の少年	2－(2) 人間愛、思いやり	原宿表参道で道を尋ねる老婦人と一緒に付き添いながら探す若者とのやりとり。	p.p.72-75	
		わが家の蔵	4－(8) 郷土愛、先人への尊敬	わが家にある古い蔵の存続をめぐる祖父と父の考え方の相違とそれを残したいというわたしの思い。	p.p.105-107	
		シカト	4－(3) 正義、校正・公平	クラスメイトから言われ、A子さんにシカトしようとしていた自分の間違いに気づき、正しい判断と勇気ある行動を取ろうと思いを新たにすわたしの姿。	p.p.126-129	
		笑顔の心で	4－(5) 勤労・社会奉仕・公共心	デパートで出会った親と障がい者の子どもとの関わりから障がい者施設でのボランティア活動を始め、自分の偏見への反省や利用者との関わりから様々なことを学ぶ少女の姿。	p.p.132-135	
		「ありがとう」に出会いたくて	2－(6) 感謝・尊敬・貢献	デイサービスセンターで友人とボランティア活動に参加し、利用者との関わりから次第に活動に喜びや意義を感じ、明るく積極的に取り組むわたしの姿。	p.p.165-168	「デイサービスセンター」の記述
中学生の道徳2年 かけがえのないきみだから	2	発車、オーライ!	2－(5) 個性の尊重、寛容・謙虚	特急バスに間違って乗車し、下車できなかった高齢の男性を、運転手とバスガイドの機転で、プレーキテストと称して降車したい場所で途中下車させる話。	p.p.19-21	
		わたし、あなた、そしてみんな	4－(5) 勤労・社会奉仕・公共心	阪神淡路大震災の被災者の食事の支度をするボランティアに参加することで、相手の思いに寄り添うことの難しさや大切さを感じる私の姿。	p.p.28-32	
		心のバリアフ	3－(3)	障がい者のみならず人々が自分らしさを見失	p.p.68-	

		リー	生きる喜び	わず、誇りを持って生きていくこと、心のバリアフリーに向けた誇りある生き方についての乙武洋匡氏の話。	73	
		たった一人の きゆうえんこうしよう 救 援 交 渉	4－(10) 国際理解、 人類愛	飢えや病気で苦しむエチオピアの難民キャンプの人々の救援活動を行い、医療救援に奔走した星野昌子氏の姿。	p.p.91-95	
		五分間の涙	4－(6) 家族愛、充実した生活	音大生の頃の父と、大切な家の電話まで処分してトランペットを買ってくれた亡くなった祖母との心の交流とそれに様々な思いを持つわたしの姿。	p.p.135-137	
		ベルナと暮らし続ける	2－(6) 感謝・尊敬・貢献	視力の衰えのため、従来の役割が果たせなくなった盲導犬ベルナと、リタイアさせず、引き続き一緒に暮らしていこうとするわたし達家族とのやりとり。	p.p.161-164	「盲導犬」の記述
		わたしって何	4－(6) 家族愛、充実した生活	携帯メールで友人を叱難する内容のやりとりをしていた所、自分にも心ない内容のメールが送信され、落ち込んでいた所、父からの優しい携帯電話で一人ではない自分に気付くわたしの姿。	p.p.165-168	
中学生の道徳3年 かけがえのないきみだから	3	女闘士 成田真由美	1－(4) 真理・真実・理想の追求	脊髄炎による車椅子生活や交通事故等、闘病生活の試練を乗り越えて、パラリンピック女子競泳で多くのメダルを獲得した成田真由美さんの姿。	p.p.10-13	
		五井先生と太郎	4－(3) 正義、公正・公平	両親が言語と聴覚に障がいがあり、自分の名前を呼んでももらえなかったことでいじめやつらい思いをしていた高校生の太郎と、太郎の中学時代の友人の父で病死した担任の五井先生との間で彼の彼を両親のような気持ちで太郎と呼ぶ先生の思いと、その限らない優しさに気付く太郎とのやりとりや心の動き。	p.p.48-54	
		すばらしい青年たち	1－(4) 真理・真実・理想の追求	筆者のまわりにいる父親の墓参を欠かさず、礼儀正しいA君や中途障がい車椅子生活となり、父の会社の倒産や兄の事故死、母の癌などを経験しつつも、車椅子の先生として進学塾を開いて中学生を教えるB君など、若者の本性における輝きを見、学ぼうとする話。	p.p.58-61	
		三メートルの重み	4－(3) 正義、公正・公平	数年前、鹿児島から遊びに来た祖母にスミミング教室に送ってもらったのがいやで離れて歩いたことを、老人性痴呆症（認知症）となり、2年前に亡くなった祖母の言葉を思い出しつつ詫言、祖母に感謝する中学3年生のわたしの思い。	p.p.66-68	「老人性痴呆症」の記述
		笑顔がかける橋	4－(10) 国際理解、人類愛	担任の先生のすすめで、募金活動等をしてアフリカに送るボランティアを始め、コンゴ共和国のストリート・チルドレンの「アニーの家」からお礼の手紙と写真が届き、国際協力への手応えを感じ、ボランティアへの関心を深める高校生のわたしの姿。	p.p.80-82	
		タケシ君大いに揺れる	2－(2) 人間愛、思いやり	電車内でお年寄りに席を譲るまでのタケシ君の心の動きや姿勢、態度。	p.p.83-87	
		世界へ出て	4－(10)	国連難民高等弁務官として難民支援を行った	p.p.102	

中学校道徳副読本における福祉問題

		いく若者たちへ	国際理解、人類愛	た緒方貞子さんによる「好奇心」や「ソリダリティー（連帯）」をキーワードにした、若い世代への国内外の問題に目を向けること、現場に出ることや言葉を大切にすることの大切さなどについてのメッセージ。	-105	
--	--	---------	----------	---	------	--

・東京書籍

中学道徳1 明日をひらく	1	いじめっ子の気持ち	4－（4） 集団の意義、集団生活の向上	いじめが起こった時、皆と一緒にいじめに加担するのではなく、一人でも守ってあげられる人が一番強い人、優しい人であるとする小中陽太郎氏の作。	p.p.33-35	
		楽寿号に乗って	4－（5） 勤労・社会奉仕・公共心	老人ホーム楽寿の園でボランティアを行い、亡くなった認知症の祖母の事を思い出しつつ、お年寄りについていろいろと考えさせられる中学生のわたしの様子。	p.p.50-53	
		心をつなぐバス	2－（2） 人間愛、思いやり	様々な人が乗り合うバスで障がいのある養護学校に通う友達と共にバスに乗りましょうとする少年達とそれを待つ乗客達や運転手、席を譲るわたしとの温かい人間関係。	p.p.86-89	
		全校一をめぐして	4－（1） 遵法、社会秩序の向上	生徒会総会でアルミ缶を集めて車いすを送る美化委員会での目標とその活動について、それへの参加をめぐっての友人同士のやりとり。	p.p.94-99	「社会福祉協議会」の記述
		花に寄せて	3－（2） 自然愛、畏敬の念	心身障害者福祉センターでの展覧会での作品が話題を呼び、多くの人々に希望や生きる勇気を与え、自分も頑張っていこうとする星野富弘氏の姿。	p.p.100-107	
		樹と少年	3－（2） 自然愛、畏敬の念	足が不自由な少年と、彼の生きる希望ともなった窓のそばの美しい樹とのやりとり。	p.p.140-143	
		ぼくのふるさと	4－（8） 郷土愛、先人への尊敬	高齢化の進む串原村の伝統文化を大切に、村の発展に尽くすよう生涯をそこで暮らそうと考える少年の思い。	p.p.150-152	
中学道徳2 明日をひらく	2	わたしのいもうと	4－（4） 集団の意義、集団生活の向上	自分の妹が4年生の時、転校した学校でいじめを受け、不登校となり、数年後亡くなるまでを述べた話。	p.p.44-47	
		ごめんね、おばあちゃん	4－（6） 家族愛、充実した生活	祖母に対して冷たい態度を取っていたが、祖母が入院し、これまで大事にしてもらったことや今までの自分の態度を反省し、お見舞いに行く「ぼく」の祖母への気持ち。	p.p.58-62	
		奇跡の一週間	3－（2） 自然愛、畏敬の念	末期癌で闘病生活を送りつつ見事な絵を描きながら48歳でなくなった北村春夫さんと、ボランティアとして北村さんと出会い、自分の書く童話の挿し絵を描いてもらうわたしとの「死ぬこと」「生きること」についてのいのちをめぐるやりとり。	p.p.82-86	
		六千人のビザ	4－（10） 国際理解、人類愛	第二次世界大戦時、ポーランドからナチスの手を逃れて日本通過のビザを要求しているユダヤ人に領事の権限で発行し、多くの人を救った杉原千畝の決意と行動。	p.p.120-125	
		しんさい 震災の中で	4－（5）	阪神淡路大震災の被災者救援ボランティア	p.p.109	

			勤労・社会奉仕・公共心	に参加したわたしが、活動での人間関係に悩みつつ、その意義を感じ、多くの事を学び取る姿。	-113	
		まつばづえ	1－(2) 希望・勇気・強い意志	小児マヒで体が不自由になり、いじめにあいつつも、母の言葉を思い出しつつ、それを克服し、命がけの勉強の末に歯科医、博士となった荒武富義氏の不屈の姿勢。	p.p.163-167	
中学道徳3 明日をひらく	3	たんぼぼ作業所	4－(5) 勤労・社会奉仕・公共心	作業所に就職し、利用者との関わりでの葛藤の中で、やり甲斐を感じ始める沢村さんの姿。	p.p.38-42	
		たとえばくに明日はなくとも	3－(2) 自然愛、畏敬の念	耳も口も不自由な陶芸家の館野さん夫婦と出会い、生きる意欲を持ち、生命のいとおしさを感じている進行性筋萎縮症の正一君の姿。	p.p.56-61	
		湖の伝説	3－(3) 生きる喜び	鎖骨や肺の腫瘍で闘病生活を送り、手術で右手を失いながらも、積極的に作品を作成し、新進画家として日本画界に新風を吹き込み、生涯を終えた画家、三橋節子の姿。	p.p.70-75	
		卒業文集最後の二行	4－(4) 集団の意義、集団生活の向上	30年あまり前の6年生の時、同じクラスのT子さんへのいじめに加担して、ひどい仕打ちをし、卒業文集に「今いちばんほしいのはお友達です」と書いていたT子さんの文集を読むたびに涙をこぼし、謝罪してもしきれないと、今も心を痛めるわたしの思い。	p.p.96-99	
		よみがえれ、日本海！	3－(1) 生命の尊重	1997年のロシアのタンカー・ナホトカ号の沈没による福井県三国町の日本海沖の重油流出事故に、地元住民のみならず全国からボランティアが集まり、のべ30万人の人々の手で重油除去作業が行われ、海をよみがえらせた話。	p.p.123-127	
		流れ星	2－(2) 人間愛、思いやり	宮城まり子さんを母のように慕うねむの木学園の子ども達（母と死別した松葉杖のまもるや言語障がいやすひこ、家族が一家心中をしたたけひと、周りにいるとしみつやつとむ、たかひろ達）との関わりを綴った彼女の日記。	p.p.128-133	
		温かな心で	4－(4) 集団の意義、集団生活の向上	障がい者への接触を避けようとしている健常者の行為について新聞記事で読み、自分も友達と買い物に行った際に、同じように障がい者の男性を避けていた自分の接し方や温かな心とは何かについて深く考えるさゆみの姿。	p.p.134-137	
		もっと生きたい	4－(10) 国際理解、人類愛	エチオピアのウォロ州のシリンカでの飢餓や貧困で苦しむ人々の救援活動を行ったアグネス・チャンさんのレポート。	p.p.150-155	
		かやま 加山さんの願い	4－(5) 勤労、社会奉仕、公共心	知り合いの佐藤さんの孤立死をきっかけに、訪問ボランティアをはじめた加山さんが、訪問先の田中さんや中井さんとの出会いから、活動のあり方やその姿勢について考えている様子。	p.p.156-160	
		あふれる愛	2－(2) 人間愛、思	カルカッタの貧民のために死を待つ人の家を作ろうと奔走するマザー・テレサの姿。	p.p.172-176	

中学校道徳副読本における福祉問題

			いやり			
--	--	--	-----	--	--	--

・光村図書

中学道徳 きみがいちばんひかる とき①	1	父の言葉	2－(2) 人間愛、思 いやりの心	結核性股関節炎から奇跡的に回復した私 (黒柳徹子さん)は、退院後に同じ病気の 松葉杖の少女に出会う。気後れする自分に 掛けてくれた父の言葉が、福祉に関わる出 発点と気付く話。	p.p.8・1 1	
		母の涙 なみだ	4－(6) 家族愛、充 実した家庭 生活	未熟児で生まれ、目が不自由で育った筆者 と、困難を克服し、強く生きていくよう厳 しく愛情を持って接し、育ててくれた母の 姿。	p.p.26・ 29	
		魚の涙 なみだ	4－(3) 正義、公正・ 公平	中学時代の先輩や友人からうけていたいじ めと魚の世界にもいじめがあることを述べ つつ、他の人をいじめることが良くないこ とであるとするさかなクンの話。	p.p.40・ 43	
		いつもいつ しょに	2－(3) 友情、信頼	親友だったみゆきを他のクラスメイトと無 視することにした真理子が、一緒に過ごし た多くの場面を思い出しつつ、自分のあや まちを悔いてみゆきとやり直そうと決意す るまでの姿。	p.p.44・ 51	
		ちがいの意 味を見直す	4－(2) 公德心・社 会連帯	バングラデシュからの留学生アラムさんが 日本人の子どもの空き缶のボーイ捨てや電車 での迷惑行為をする人を注意しても関係な いと言われることから、弱い者いじめでも 自分と関係あること、社会と自分との関わり で大切にしなければいけないことがある ことを教室の中学生達に話す様子。	p.p.52・ 55	
		命	3－(1) 生命尊重	自分が極少未熟児で生まれ、6つの病名が つきながらも、成長できたこと、外泊中の 祖父の死、少年犯罪、中原中也の短歌等か ら「命」をみつめ、生きる意味を考えよう とするぼくの姿勢。	p.p.72・ 73	
		冷たい目、温 かい手	2－(2) 人間愛、思 いやりの心	足が不自由な高校生が、バスのステップが 高くて乗れず、同乗者の協力で無事に乗車 することが出来た様子から、一人一人の温 かい手を差し伸べることの大切さと、手を 貸さず、冷たい目で見てしまったことのい たらなさを感じているわたしの姿。	p.p.168 ・169	
		石段の思い 出	1－(5) 向上心、個 性の伸長	荷物を持ち、石段を上がるおばあさんと、 それを手助けできなかった中学時代の母の 思い出。	p.p.174 ・181	
中学道徳 きみがいちばんひかる とき②	2	夕焼け	2－(2) 人間愛、思 いやりの心	満員電車での様々な高齢者の様子やその高 齢者に席を譲ろうとする娘の姿勢や心の動 き。	p.p.18・ 21	
		生きるため に人は夢を 見る －左腕のカ メラマン林 建次－	1－(2) 希望・勇気、 強い意志	オートバイ事故で右腕が不自由になりつつ も、それを克服し、カメラマンとしてボク シングの試合やボクサー達の姿を撮り続け ている林建次氏の姿。	p.p.28・ 33	
		クラスの痛	4－(4)	いじめをしていた鉄也達のグループといじ	p.p.92・	

		み（朗読劇）	役割と責任の自覚・集団生活の向上	められ、やがて学校に来なくなった幸次、みかねてそれを注意し、女子からもいじめにあらう洋子、クラスメイト達の一人一人が自分らしくいられるクラスにすることをめぐるのやりとり。	99	
		ぞうさん	4－（3）正義、公正・公平	まど・みちおさんのぞうさんの話を紹介し、その内容には、鼻が長いと悪口を言われた時、一番好きな母さんも長いと誇りを持って答えるという、作家の阪田寛夫さんが著した『まどさんのうた』でのエピソードから、個性を認め合い、いじめや差別のない社会にしていくことの大切さを示す意味があることを記した作。	p.p.100・101	
中学道徳 きみがいちばんひかる とき③	3	猫の事務所 ある小さな かんが 官衙に関する 幻想	4－（4） 役割と責任 の自覚・集 団生活の向 上	猫の地理と歴史を調べる猫の事務所で、同僚に無視され、自分の原簿まで取られて仕事をさせてもらえなくなったかま猫の姿や、獅子によりそんな様子の事務所が解散させられるまでのいじめのない集団、一人一人が輝く集団を作ることを提起した宮沢賢治の作。	p.p.112・119	
		地域で守る 子どもの安全	4－（2） 公德心・社会 連帯	社会福祉協議会のメンバーに高齢者が多いため、アルミ缶回収によるフィリピン恵まれない子ども達への資金援助活動を共にやってきた修学院中学校の生徒にも協力を求め、地域の子どもの見守り活動が実施され、地域の安全や福祉の推進がはかれるようになったとされる話。	p.p.158・161	「社会福祉協議会」の記述
		わたしのボランティア 体験	2－（2） 人間愛、思い やりの心	妻と飼っていた犬が亡くなった後に、老人施設に入所したお年寄りが、犬の散歩をしていたわたしとの出会いの中で、次第に元気を取り戻し、長い距離も歩行できるようになったことで、これから散歩をしながら人と対話をして理解することと人を喜ばせて元気することを自分のボランティアにしようとするわたしの思い。	p.p.162・163	
		挑戦	1－（2） 希望・勇気、 強い意志	全盲ろう者である福島智さんが母の発案による「指点字」と「指点字通訳」によって生きるエネルギーを与えられ、大学に進学し、バリアフリー分野の大学教員として他者と協力しながら自分自身に挑戦することについて述べた東大入学式での祝辞。	p.p.168・173	「バリアフリー」の記述

・新学社

中学生の道徳 私たちの新しい生き方 ①	1	ある日の教室 から	2－（2） 思いやりの 心	グループノートの内容から、いじめの行動や狭い仲間意識のかばい合いを話題に取り上げ、本当の思いやりについて考えさせようとする生徒作文。	p.p.34・36	
		心をつなぐ カレンダー	4－（2） 社会とのつながり	聴覚と知的に障がいのあるはり絵作家岡田清知さんは、子どもの頃のカレンダーへの思いからカレンダーにこだわって「はり絵」を続ける。陶芸家の高井進さんや足の不自由な画家の原田泰治さん、母や家族、学校や施設の人達等多くの人々との「はり絵」を通して育まれる心の連帯。	p.p.46・49	後ページに「バリアフリー」に関する記述

中学校道徳副読本における福祉問題

		荷物	2－（１） 心をつなぐ 言葉	タクシーのベテラン運転手の乱暴な運転を。「わたしは壊れやすい荷物です」と優しくユーモアをもって諭すおばあさんの小話。	p.p.74-75	
		いくさが置いていった贈り物	2－（６） 感謝	アメリカ軍人の父と沖縄の母の間に生まれた新垣勉氏が失明や生い立ちを憎みながら、日本人離れた歌声は、父のラテンの血と母の沖縄の心であることを受け入れ、授かった命に感謝する話。	p.p.127-132	
中学生の道徳 私たちの新しい生き方 ②	2	いじめについて考える	4－（３） 正義の実現	いじめた側、いじめられた側、傍観していた側からの三者の意見。そして、いじめられていた生徒をみんなで守った事例。	p.p.17-19	
		祖父の贈り物	2－（６） 感謝	急死した祖父が多くの人々に慕われていたことを知り、心の底から本当の優しさと感謝の心を持てる人になろうと決意する生徒の作文。	p.p.20-22	
		赤い松葉杖の少女	2－（２） 思いやり	結核性股関節炎から奇跡的に回復した私（黒柳徹子さん）は、退院後に同じ病気の松葉杖の少女に出会う。気後れする自分に掛けてくれた父の言葉が、福祉に関わる出発点と気付く話。	p.p.44-46	
		エルマおばあさんからの「最後の贈りもの」	3－（１） 生命の尊重	命の限り精一杯生きながら、家族への愛情をもって死の準備をする老婦人と、尊敬と慈しみをもって死にゆく人をケアする家族に対する筆者の思い。	p.p.81-83	
		佐藤さんの顔を思い浮かべながら	1－（３） 誠実な態度	再度、老人保健施設を訪問する、と約束した吹奏楽部員の「私」が、その日大切な塾のテストがあることに気付く。どうしたらよいのか悩む「私」の心の葛藤。	p.p.92-93	「老人保健施設」の記述
		ひとりひとはみな違う一他人の立場	2－（５） 広い心	電車内でお年寄りに座席を譲ることを話題としながら、異なる立場であっても互いに理解し合うことの大切さを提案するエッセー。	p.p.94-95	
		足袋の季節	3－（３） よりよく生きる	誰もが持つ人間の弱さやもろさを知り、それを克服して誠実な生き方を求めようとする姿勢。	p.p.98-100	
		「人類の恩人」～アンリ・デュナン～	1－（４） 理想の実現	自己犠牲を払いながら、人道とへいわのために赤十字の設立、発展に尽力したアンリ・デュナンの生涯。	p.p.104-109	
中学生の道徳 私たちの新しい生き方 ③	3	助け合い	4－（２） 社会連帯	中越地震の被災の中で、ボランティアが見た人々の助け合い、支え合って生きる姿勢。	p.p.16-19	
		母から学んだボランティアの心	4－（５） ボランティア精神	身体の不自由な祖父の兄の世話をしながら、目の不自由な方に聞いてもらうための朗読ボランティアを続ける母の姿に学び、自分自身の成長のために活動を始める女子中学生の作文。	p.p.20-22	
		いのちをつなぐ	3－（１） 生命の尊重	有哉の骨髄バンク登録を通じた、生命への考えの深まりや自他の生命の尊重。	p.p.75-79	
		命のビザ	1－（４） 理想の実現を目指して	第二次世界大戦時、ポーランドからナチスの手を逃れて日本通過のビザを要求しているユダヤ人に領事の権限で発行し、多くの人を救った杉原千敏の決意と行動。	p.p.110-113	

		天ぷらそば	2－(2) 人間愛	更科庵名物の天ぷらそばをおいしそうに食べた高齢者の老いゆく様子の中に、亡くなった母の姿を思い起こして涙ぐむ店主の岩崎さんの姿。	p.p.116 ・120	
		お母さん、ぼくが生まれてごめんなさい	4－(4) 感謝して生きる	生まれてきたことを詩で詫びつつ、母に感謝し、母をいたわり亡くなっていった脳性マヒのある息子と、息子に詫び感謝する母との間の愛情によって結ばれた家族の深い絆。	p.p.121 ・124	
		大人たちの都合で無数の子どもが...	4－(10) 人類の幸福	ユニセフ親善大使の黒柳徹子さんが、アフリカの民族紛争に巻き込まれて犠牲となる無数の女性や子どもたちの惨状を訴えたレポート。	p.p.142 ・144	

・ 廣 済 堂 あ か つ き

中学生の道徳1 自分を見つめる	1	おばあちゃんの指定席	2－(2) 思いやり	毎週土曜日の定刻に同じ電車に乗るゆう子がおばあちゃんのために座席を譲る思いやりの心、2人の心の通い合い。	p.p.6・7	
		私もいじめた一人なのに...	4－(3) 正義、公正・公平	同じクラスのアレルギー性のアトピーを持った子を一緒にいじめていた私が、毎朝みんなの花の世話をしている彼女に感謝する気持ちと、いじめへの後悔や反省をする心の動き。	p.p.68・71	
		島耕作 ある朝の出来事	4－(2) 公德心、社会連帯	朝の通勤ラッシュの電車内で、重そうなバッグを持って立っている老婦人に座席を譲るよう50がらみの男性を諭す島耕作とのやりとりをめぐる互いをいたわる心。	p.p.78・79	
		午前一時四十分	4－(5) 勤労と奉仕の精神	二十六年間八十四歳になっても夜中の午前一時四十分新聞のチラシの折り込みや集金、配達を行い、父の死後も自分の使命として新聞店で働く母の姿勢。	p.p.120 ・123	
		ある日のバスターボックス	4－(3) 正義、公正・公平	右足が極度に折れ曲がっており、正常な歩行が困難なO少年が、クラスメイトの発案したルールとして彼を特別扱いせずにソフトボールをし、差別や偏見のない交流が図られていたとする、40年の教職生活で退職した元小学校教諭の思い出。	p.p.142 ・144	後ページに、車椅子の男性を地下鉄出口の階段で、他の男性と協力して介助する女性の話を記載。
		二枚の写真	4－(7) 愛校心	筋ジストロフィーで身体の不自由な入院中の浩少年は、皆と一緒に卒業式を迎えたいと願っているが、病気のため式に出られない。一緒に卒業式を迎えたいという思いから、自発的に屋上に上がる生徒達と病室からそれを見つめる笑顔の浩とが心がひとつになる瞬間。	p.p.152 ・155	
中学生の道徳2 自分を考える	2	めいわく 迷惑とは何ぞ	4－(2) 公德心、社会連帯	「車輪の一步」という映画を通して、その映画に登場する車椅子の少女の変容していく心の動きに着目することで、筆者が語る「迷惑」について深く考え、社会連帯の大切さ、自己の生き方やあり方を考えさせる三浦睦子さんのエッセイ。	p.p.34・37	
		地下鉄で	4－(2) 公德心、社会連帯	電車内での座席をめぐる女子中学生達と老女との心温まるやりとり。	p.p.62・64	

中学校道徳副読本における福祉問題

		軽いやさしさ 思いやり	2－(2)	路地裏の小さな菓子屋を営む老婦人と、彼女の店を訪れる筆者や学生達との間の真のやさしさや思いやり。	p.p.88-92	
		国境線が鍛える共生の思考 －国際協力を考えよう	4－(10) 国際理解、 人類愛	アフリカやアジアの難民収容所で奉仕活動を行おうとする若者が、その惨状に呆然として立ちすくむ様子や、国際貢献について金を出して物資を送りつけておけばいいという日本独特の思い上がりにも釘を刺す大養道子さんの奉仕活動への思い。	p.p.102-104	
		加山さんの願い	4－(5) 勤労と奉仕の精神	知り合いの佐藤さんの孤立死をきっかけに、訪問ボランティアをはじめた加山さんが、訪問先の田中さんや中井さんとの出会いから、活動のあり方やその姿勢について考えている様子。	p.p.110-113	
		一冊のノート	4－(6) 家族愛	同居している祖母は、男の子二人の孫の成長を楽しみにしているが、「物忘れ」がひどくなり、成長期の孫と軋轢が生じる。ある日祖母の日記を見つけ、その内容から胸が揺さぶられる孫とのやりとり。	p.p.122-127	
		ひとりぼっち	4－(3) 正義、公正・公平	無視から暴力までいじめがエスカレートし、自殺まで考えるある生徒の実体験から命の大切さやいじめの問題について考えさせる手記。	p.p.132-135	
		たび 足袋の季節	3－(3) 生きる喜び、 弱さの克服	誰もが持つ人間の弱さやもろさを知り、それを克服して誠実な生き方を求めようとする姿勢。	p.p.146-148	
		「先生にビールやっておくれ」	2－(2) 思いやり	鎌田實さんの患者の一人である山根のばあは、人をもてなすのが好きで、臨終が近くなっても鎌谷さんにビールをふるまおうとする、相手への心豊かな思いやりの心を持つその姿を描いた作。	p.p.150-152	
中学生の道徳3 自分をのばす	3	ウサギ	1－(3) 自主自律、 誠実・責任感	成績トップでやりたい放題の主人公の小学校に、転校生中川清子がやってくる。彼女は頭も良く、運動神経も抜群、品行方正。学校での主人公は立場が揺らぐと考え、ウサギ小屋から1羽のウサギを持ち出し、清子のランドセルに入れ、ウサギが死んでしまう。自分の判断と行為に後悔する主人公の姿から、物事の判断について考える。	p.p.10-13	
		やさしいうそ	1－(2) 強い意志、 不撓不屈	交通事故で身体を失った筆者が、自分の女優生命が絶たれたと絶望している時、訪ねてきた恩師の一言で新たな目標、生きる力を見出し、語り部女優として復帰し活動する姿勢。	p.p.14-19	「ストレッチャー」の記述
		もつとも悲しむべきことは、病めることでも貧しいこと	4－(10) 国際理解、 人類愛	カルカッタの貧民のために死を待つ人の家を作ろうと奔走するマザー・テレサの姿。	p.p.66-71	

・日本文教出版

中学校道徳 あすを生き	1	義足をアフガニスタンへ	4－(10) 国際理解、	小学6年生の時、アルミ缶を集めて資金を作り、アフガニスタンの戦争被害で手足を	p.p.44-45	
----------------	---	-------------	-----------------	--	-----------	--

る 1		人類愛	失った人々に義足を送る活動を行った生徒の作文。		
	無口なおじいさんベッポ	1－(2) 希望・勇氣・強い意志	他人からどんなことを言われようと黙々と道路掃除夫の仕事を着実にこなすベッポおじいさんと彼に理解を示し、すばらしい聞き手でもあるモモとのやりとり。	p.p.90-93	
	手で話すことの楽しみ	4－(2) 公德心・社会連帯	手話でのコミュニケーションや障がい者とのふれあいの大切さ、障がい者をめぐる差別、気持ちや願い、社会の動き等についても学ぼうとする中学生の作文。	p.p.106-109	後ページに「手話コミュニケーション」の説明有り
	家族と支え合うなかで	4－(6) 家族愛、充実した生活	老人ホームを訪問したり、家族である寝たきりの祖母の介助の手伝いを通じ、家族や社会の一員としての自分の生き方について、思いを新たにする生徒の作文。	p.p.140-142	「高齢社会」の記述後ページに100歳の高齢者のエッセーを記載
中学校道徳あすを生きる 2	最後のパートナー	3－(1) 生命の尊重	盲導犬として働いてきた引退犬を預かり、死まで看取るボランティアを、そのつらさからやめようと思ったが、盲導犬と共に暮らす障がい者の感謝の手紙やその思いに、続けようとする筆者の思い。	p.p.10-13	「盲導犬」「パピーウォーカー」の記述
	できること、できないこと、そして接し方	4－(4) 集団の意義、集団生活の向上	体育大会でのクラス対抗競技に障がい者の友人も楽しんで参加できる39人40脚に挑戦しようとするクラスメイト達の姿勢を描く生徒の作文。	p.p.26-29	
	ウィニング・バス	1－(3) 自主自立、誠実・責任感	バイク事故で下半身不随となり、車椅子生活となり、両親や友人の支えの中で登校をし、車椅子バスケットボールチーム「北九イーグルス」での練習に参加する健太が、自分のことで女子をいじめている男子生徒とけんかする中で、休みだした学校に復帰していくまでの姿。	p.p.38-43	
	おばあちゃんのみそ汁	1－(1) 望ましい生活習慣	祖母の家で夏休みを過ごし、野菜作りを手伝った加奈が、祖母にみそ汁を作ってもらい、食生活を改め、野菜でみそ汁を作り、母に食べさせるなど、祖母の影響から自分の生活や考え方を改めていこうとする姿。	p.p.58-61	
	あふれる愛	4－(10) 国際理解、人類愛	カルカッタの貧民のために死を待つ人の家を作ろうと奔走するマザー・テレサの姿。	p.p.62-65	
	マザー・テレサのパスポート	2－(5) 個性の尊重、寛容・謙虚	マザー・テレサと面会し、許可証のパスポートを書いてもらってマザーハウスの施設を写真に撮るうちに、自らの考え方や活動を反省し、次第にマザー・テレサのすばらしさを写真に捉えることができるようになったとする中守弘さんの体験談。	p.p.102-105	
	ボランティアから学んだこと	4－(5) 勤労・社会奉仕・公共心	定時制高校に通いながら、病院でボランティア活動を行い、将来看護福祉の道に進もうと考えている生徒の作文。	p.p.102-105	
	足袋の季節	3－(3) 生きる喜び	誰もが持つ人間の弱さやもろさを知り、それを克服して誠実な生き方を求めようとする姿勢。	p.p.110-113	
	ガンジー	4－(3) 正義、公	人種差別反対のための無抵抗運動を行い、アジア人救済法成立に尽力したり、イギリ	p.p.156-159	

中学校道徳副読本における福祉問題

			正・公平	スからの不当な権力にも屈しなかったガンジーの姿勢。		
中学校道徳 あすを生きる3	3	どんなときでも自分を信じて	1－(2) 希望・勇氣・強い意志	交通事故で車椅子生活になりながら、母子家庭で子育てをしながら障がい者福祉センターで働き、車椅子ダンスで車椅子ワールドカップ準優勝、長野パラリンピック出場、全日本選手権ダンスの部三位等、意欲的に多くの事に取り組む あぜがみ 畦上 智子さんの姿。	p.p.48-51	
		命のトランジットビザ	4－(10) 国際理解、人類愛	第二次世界大戦時、ポーランドからナチスの手を逃れて日本通過のビザを要求しているユダヤ人に領事の権限で発行し、多くの人を救った杉原千畝の決意と行動。	p.p.76-79	
		ぼくの夢	4－(3) 正義、公正・公平	聴覚障がい者の両親の下に生まれたぼくが癌で43歳で亡くなった母の遺言や父の思い、また、腹痛で入院した聴覚障がい者のおばと病院の先生とのコミュニケーションを取るための手話を通じた通訳の経験等から、人と人との心をつなぐ手話通訳者になろうとする姿。	p.p.112-115	「聴覚障がい者」の記述
		ぼくは伴走者	2－(2) 人間愛、思いやり	町内のマラソン大会に出場する足が不自由で車椅子生活のひろしを伴走者として介助しながら付き添うぼくの思い。	p.p.120-123	
		がれきの山、白一色	4－(5) 勤労・社会奉仕・公共心	大阪で暮らしていた幼い頃に阪神淡路大震災にあい、ボランティアが駆けつけてくれたことを思い出しつつ、故郷の新潟で中越地震も経験し、山古志村の救援除雪ボランティアを始めるわたしの思い。	p.p.128-133	
		心のバリアフリー	4－(2) 公德心・社会奉仕	障がい者のみならず人々が自分らしさを見失わず、誇りを持って生きていくこと、心のバリアフリーに向けた誇りある生き方について述べた乙武洋匡氏の話。	p.p.144-147	

・日本文教出版

中学道徳 生きる力1年	1	いやと言えないわたし	1－(2) 強い意志 (希望・勇氣)	真美や君子にイヤといえず、宿題を見せたり掃除当番を代わったり、教科書を貸す裕子や、彼女らの要求を断り、クラスのいじめの対象となり、交通事故で学校を休むことになった綾子、それをきっかけに生徒達にいじめについて問いかける東先生とクラスメイト達の姿。	p.p.49-53	
		一冊のノート	4－(6) 家族愛	同居している祖母は、男の子二人の孫の成長を楽しみにしているが、「物忘れ」がひどくなり、成長期の孫と軋轢が生じる。ある日祖母の日記を見つけ、その内容から胸が揺さぶられる孫とのやりとり。	p.p.74-79	
		トイレの水くみ	2－(2) 人間愛(感謝・思いやり)	震災での被災者がトイレの水が使えず、プールで水くみをする活動の経験や多くの炊き出し物資の配給ボランティアの活動から、いつでもトイレを使えるように水くみを始めたぼくの姿。	p.p.128-131	

		かけ合うひと 声の大切さ	4－（３） 正義、公正・ 公平	雨の日のバス中で傘を持って立っていた高 齢の男性と席を譲ろうとしない女子学生や サラリーマン、席を譲れず、一ヶ月後のバ ス内でようやく譲ることのできたわたしと のやりとり。	p.p.136 -139	
中学道徳 生きる力2 年	2	車いすの重み	2－（２） 人間愛（感 謝 ・思いやり）	駅の階段で車椅子の少女を介助する経験を する中で、人との関わりの中で、大切なこと について思いをめぐらせるわたしの姿。	p.p.44・ 47	
		かき 柿 だろぼう	2－（２） 人間愛（感 謝 ・思いやり）	善太老人が大切に育てている柿の木から柿 を盗んでいた少年が、老人のしたためた手紙 を読み盗みをやめ、2年後にお詫びの手紙を したためてセーターを贈り改心した話。	p.p.59・ 63	
		もっとわかり 合いたい	4－（４） 集団生活の 向上（役割・ 責任）	老人ホームでの入所者への話し相手ボラン ティアの活動を通じて様々なことを学んだ 中学生の作文。	p.p.80・ 82	「特別養護老人ホーム」 の記述
		文字を書く喜 び	1－（２） 強い意志 （希望、勇 気）	けがをして首から下が動かなくなりつつ も、多くの人々との出会いの中で、様々な 思いを胸に口で見事な作品を描く星野富弘 さんの姿。	p.p.120 -125	
		かやま 加山さんの願 い	4－（５） 公共の福祉 （勤労、奉 仕）	知り合いの佐藤さんの孤立死をきっかけ に、訪問ボランティアをはじめた加山さん が、訪問先の田中さんや中井さんとの出会 いから、活動のあり方やその姿勢について 考えている様子。	p.p.146 -151	
中学道徳 生きる力3 年	3	マザー・テレ サの心ー「痛 みある愛を」	2－（２） 人間愛（感 謝・思いや り）	マザー・テレサのもとからやってきた四人 のシスター達が、東京湾の埋め立て地にあ る「アリの街」に未婚の母と子のための「愛 の家」を開いて活動することと共に、マザ ー・テレサが来日してすぐに山谷やあいり ん地区を訪れ、その実情から貧しい人々へ の痛みを分かち合う愛の実践を行うことに ついての我々への問いかけ。	p.p.43・ 47	
		ばあば	3－（１） 生命の尊重	中学までひいおばあさんと同居をし、家族 との間で交わした様々な関わりや思い出、 心の交流。	p.p.100 -105	
		和泉市の青少 年赤十字	4－（５） 公共の福祉 （勤労、奉 仕）	和泉市立青少年の家に集まった中学生がボ ランタリーサービスについて体験学習を し、実生活で実践していこうとする様子。	p.p.120 -122	
		足袋の季節	3－（３） 生きる喜び	誰もが持つ人間の弱さやもろさを知り、そ れを克服して誠実な生き方を求めようとす る姿勢。	p.p.146 -149	

・日本標準

中学生みん なで生き方 を考える道 徳1	1	人に喜ばれ ることは自 分の喜びで もあるー赤 星 憲 広	2－（５） 寛容・謙虚	ファンで足の不自由な人に車いすを贈った ことをきっかけに、盗塁した数だけ全国の福 祉施設や病院に車いすを贈る活動や、自分が 設立した少年野球チームの子ども達の手で、 お世話になっている地域の清掃活動を行う 等、相手の喜ぶことが自分の喜びともなると する元阪神タイガースの赤星憲広選手の話。	p.p.2・5	
-------------------------------	---	---	----------------	--	---------	--

中学校道徳副読本における福祉問題

		チェーンメール、あなたならどうする？	2－(3) 信頼・友情	ある中学で起こったチェーンメールでのO子さんへのいじめの例を挙げ、それについての読み手の考えを問う。	p.p.35-38	
		いまどきのこども	1－(3) 自主・自律と責任	乗り物でお年寄りに座席を譲る際の少年達の心の動きや姿勢を漫画で描き、小さな勇氣について問う。	p.p.62-67	
		愛、深き淵より	2－(6) 感謝・貢献	器械体操で身体が不自由となった星野富弘さんが作品を描くことで主体的に生きる姿。	p.p.80-83	
		ユニセフ最前線－戦争をやめた人間愛－	4－(10) 国際理解・人類愛・平和	アメリカによるイラク攻撃の中で、6時間の両国の停戦を約束させ、危険をかえりみずイラクへ緊急支援物資の搬送に成功したユニセフの活動。	p.p.120-122	
		生まれてきて良かった	3－(3) 人間理解と生きる喜び	車椅子生活の娘が踊りでお年寄りを感動させたり、「生まれてきて良かった」と話す姿に生きることの意味や喜びについて思う母の気持ち。	p.p.138-141	「デイ・サービス」の記述
		祖父が伝えてくれたこと	4－(6) 家族愛、充実した家庭生活	軟骨種で左腕を失い、身体障がい者となりつつも、力強く生きそび打ちや茶道など右手だけで教えてくれる祖父と両親の離婚で一緒に生活するようになった私との心の交流。	p.p.144-147	
		自由と勝手のちがいが「個人の自由」の考え方	4－(1) 遵法、社会秩序の向上	英語のrightやfreedom, liberty, individual、日本国憲法13条、「フランス人権宣言」を引用しつつ、「権利」「自由」「個人」という言葉の意味について説明。	p.p.154-157	
		いま考えれば、あれはいじめだった	4－(3) 正義、公正・公平	自分の行動を客観化して見つめた時、小学生の頃にいじめたB君やC子さんに対する申し訳なさや自分の弱さを誤った考え、見にくい考えだったことに気付く生徒の作文。	p.p.158-160	
中学生みんなです生き方を考える道徳2	2	「みんな違っていい」と思おう	2－(2) 思いやり	ADHDでもある「わたし」は小学生の時にいじめっ子でもありいじめられることもあったが、クラス内で「違っていい」という思いを自分も相手も持ち、お互いを大切にすることがいじめをなくすことにつながるとする高山恵子さんの話。	p.p.12-14	
		わたしのせいじゃない	4－(3) 正義、公正・公平	友人の一人を大勢でいじめ、どうすることもできず、結局一緒に「いじめに加わりながら、わたしのせいじゃない」と言い聞かせている 私の態度を漫画で紹介し、考えさせる。	p.p.53-56	
		祖母への態度	1－(5) 自己理解と向上心・個性の伸長	祖母に対して素直になりたいと思いながら、つい、生意気な言葉遣いや態度をしてしまい、なかなか改まらない自分の思いを述べた生徒の作文。	p.p.94-97	
		あなたにとって大切なものは？	2－(3) 信頼・友情	5～6人のグループでそれぞれ自分が大切にしているものを選んで、その理由を書かせ発表させる、価値観の多様性を問うワーク。	p.p.98-99	
		人は何によっても差別される	4－(2) 公徳心、より	貧富の差や職業、テストの点数等で人間は決して差別されない、人間としての価値や、	p.p.104-107	

		ない	よい社会の 実現	どう生きることが大切かについての斉藤善 博さんの「君の可能性」の著書からの抜粋。		
		未来人へのメ ッセージ	1－(2) 希望・強い意 志	小・中学校時代、いじめ続けられながらも卑 屈にならず、本を作ってクラスメイトに配 ることで喜ばれ、いじめをはねのけていつ た手塚治虫さんの姿。	p.p.156 ・160	
中学生みん なで生き方 を考える道 徳3	3	嫌なヤツがい ると、ウザイ って思っちゃ う	4－(4) 集団の意 義、集団生 活の向上	自分とは異なる価値観、感性、意見、考え 方等をもつ他者にも心を開き、共同してい くことの大切さを説く、義家弘介さんのメ ッセージ。	p.p.48- 51	
		公園でひっそ り生きる人	4－(3) 正義、公正・ 公平	ホームレスだった須藤泰造さんが1983年2月 5日に少年達によってゴミ箱に入れられてな ぶり殺しにされた事件を通して、人にはそれ ぞれ固有の人生があり、自分の行為で他人を 傷つけることはないか、自省を促す。	p.p.61- 65	
		加山さんの願 い	4－(5) 勤労・社会 奉仕	知り合いの佐藤さんの孤立死をきっかけ に、訪問ボランティアをはじめた加山さん が、訪問先の田中さんや中井さんとの出会 いから、活動のあり方やその姿勢について 考えている様子。	p.p.70- 75	
		スケボーに乗 った天使	4－(3) 正義、公正・ 公平	両足がなく、身体が不自由なケニーがいじ めにあいながらも父の励ましや周囲の助け の中でくじけないで生きる姿。	p.p.86- 91	
		M7.3 子ど もたちの見た もの	4－(8) 郷土愛・先 人への尊敬	阪神淡路大震災から十年後、かつて小学生 だった頃を振り返る高校生の作文による相 互の助け合いについてのメッセージ。	p.p.100 ・105	
		夜の街の本当 の姿を伝えて 下さい。	1－(1) 望ましい生 活習慣	夜の街を遅くまでたむろしたり、派手な崩 れた格好で歩く青少年達が、売春や風俗、 薬物、犯罪に巻き込まれていく事への恐ろ しさや醜さと、そのような所へ近づかない ように節度ある生活習慣を促そうとする夜 回り先生の水谷修さんからの警鐘。	p.p.106 ・108	
		新しい惑星へ の旅	4－(2) 公德心、より よい社会の 実現	生きていく上で必要なもの、大切なものは 何か、協力や相手を尊重することの大切さ について考えさせるワーク。	p.p.120 ・123	
		「老い」を理 解することは できますか？	2－(2) 思いやり	電車の自動券売機や信号でのお年寄りの行 動等、実際に疑似体験させ、その立場を理 解させようとする若者へのインスタントシ ニア体験のすすめ。	p.p.140 ・143	

・教育出版（独自の重点項目を設定している。）

中学道徳 心つないで 1 Heart to Heart	1	原田泰治の 世界	1－(2) 希望・勇気、 強い意志	幼い頃の病気で両足が不自由となりつつ も、絵を描き続け、力強く生きて紺綬褒章 を受章した原田泰治さんの姿。	p.p.10- 15	
		不自然な独 り言	2－(2) 人間愛、思 いやり	横断歩道で目の不自由な人を見かけ、直接 声を掛けたかったが、できない中で青にな った時、「渡ろう」という不自然な独り言 を言う自分の気持ちを表した生徒の作文。	p.p.44- 45	「バリアフリー」「点字 ブロック」「盲導犬」の 記述
		軽い優しさ	2－(2) 人間愛、思 いやり	路地裏の小さな菓子屋を営む老婦人と、彼 女の店を訪れる筆者や学生達との間の真の やさしさや思いやり。	p.p.46- 49	

中学校道徳副読本における福祉問題

		愛、深き淵より ふち	3－(1) 生命尊重	器械体操で身体が不自由となった星野富弘さんが作品を描くことで主体的に生きる姿。	p.p.76-81	
		ごめんね、おばあちゃん	4－(6) 家族愛	祖母に対して冷たい態度を取っていたが、祖母が入院し、これまで大事にもらったことや今までの自分の態度を反省し、お見舞いに行く「ぼく」の祖母への気持ち。	p.p.138-143	
中学道徳心つないで2 Heart to Heart	2	天ぷらそば	2－(2) 人間愛、思いやり	更科庵名物の天ぷらそばをおいしそうに食べた高齢者の老いゆく様子の中に、亡くなった母の姿を思い起こして涙ぐむ店主の岩崎さんの姿。	p.p.46-53	
		未来の自分わたしのいもうと	2－(3) 友情、信頼	未来の自分を思い、今しているいじめを反省し、いじめた子に謝罪する少女の姿を漫画で紹介。自分の妹が4年生の時、転校した学校でいじめを受け、不登校となり、数年後亡くなるまでを述べた話。	p.p.54-63	
		たったひとつのたからもの	3－(1) 生命尊重	心内膜床欠損症と肺高血圧症で治療やリハビリをしつつ、通園施設で過ごし、6年間の生涯を閉じた加藤秋雪君への筆者である浩美さんの思い。	p.p.84-91	
		おじいちゃんが教えてくれた	4－(6) 家族愛	元気な時色々なことを教えてくれ、一生懸命働いてきた祖父が、認知症となり、施設を利用するようになったが、これからも祖父を始め、お年寄りに親切にすること、家族の支え合いの大切さを実感する生徒の作文。	p.p.154-157	
		六千人の命のビザ	4－(10) 国際理解、平和・人類愛	第二次世界大戦時、ポーランドからナチスの手を逃れて日本通過のビザを要求しているユダヤ人に領事の権限で発行し、多くの人を救った杉原千畝の決意と行動。	p.p.170-175	
		足袋の季節 たび	2－(2) 人間愛、思いやり	誰もが持つ人間の弱さやもろさを知り、それを克服して誠実な生き方を求めようとする姿勢。	p.p.50-53	
中学道徳心つないで3 Heart to Heart	3	あなたは顔で差別をしますか	2－(5) 個性の尊重、寛容・謙虚	「海綿状血管腫」で顔の膨らみで、小学校の同級生からのいじめや、幼稚園でのわたしを入園させたくない匿名の電話、人からの罵声など、差別や偏見、いじめに対する問題提起と思いやりや自分自身への誇り、自信についての藤井輝明さんの体験談とその思い。	p.p.72-77	
		卒業文集最後の二行	4－(3) 正義、公正・公平、差別・偏見	30年あまり前の6年生の時、同じクラスのT子さんへのいじめに加担して、ひどい仕打ちをし、卒業文集に「今いちばんほしいのはお友達です」と書いていたTさんの文集を読むたびに涙をこぼし、謝罪してもしきれないと、今も心を痛めるわたしの思い。	p.p.130-135	
		あふれる愛	4－(10) 国際理解、平和・人類愛	カルカッタの貧民のために死を待つ人の家を作ろうと奔走するマザー・テレサの姿。	p.p.178-183	

・ 日刊企画

中学生の新しい道 1	1	オン ザ ホイール	1－（２） 強い意志	車椅子生活の肇が県の車椅子バスケットチームに入り、コーチやチームメイトの矢沢さんのアドバイスや支えで自主トレーニングにも取り組んで、次第に力をつけ、大会でゴールを決められるまでになり、肉体的にも精神的にも成長していく様子。	p.p.15-20	
		誰のために	2－（２） 人間愛	阪神大震災の時、千葉から被災者救援ボランティアにかけつけて活動をし、パキスタンの震災地にユニセフを通じて寄付を贈ろうとする父の思いから、周囲に心を配り、損得を超えて行動することの尊さを学ぶ息子の駿介の姿。	p.p.45-49	
		思いちがい	4－（３） 差別偏見	ボランティアについて調べようとする由希が、クラスメイトで障がい者の友子さんから思い切った障がいや彼女の生活、心ない言葉を投げかけられ傷ついた経験などについて色々と聞くにつれ、自分の障がいに對する間違った捉え方など、友子の姿から改めて理解する様子。	p.p.105-108	
		いつも一緒に	4－（３） 差別偏見	親友だったみゆきを他のクラスメイトと無視することにした真理子が、一緒に過ごした多くの場面を思い出しつつ、自分のあやまちを悔いてみゆきとやり直そうと決意するまでの姿。	p.p.109-114	
中学生の新しい道 2	2	プロフ	4－（３） 差別偏見	インターネットのプロフの内容をめぐるクラスメイト間でサイトの炎上やわだかまりが起こる中でのそれぞれの心の動き。	p.p.104-107	
		わたしのいもうと	4－（３） 差別偏見	自分の妹が４年生の時、転校した学校でいじめを受け、不登校となり、数年後亡くなるまでを述べた話。	p.p.108-111	
		黒ちゃんのゆううつ憂鬱	4－（３） 差別偏見	悪ふざけでやっていた遊びをいじめと気付かずに、その対象にされていた黒ちゃんと、つらい思いをさせていたことに気付いた友人の翔太、悪ふざけをやめさせなければいけない松本やサブ、リョウ達とのやりとり。	p.p.112-116	
		包み紙	4－（５） 勤労の貴さ	福祉センターからのお年寄りのための弁当や包み紙を作ったり、配ったりするボランティアの活動を通じた包み紙を大切にしてくれるお年寄りとの出会い等を通じてボランティアのやりがいや喜びを感じる美咲や恵美の姿。	p.p.121-124	
		ぼくのボランティア活動	4－（５） 勤労の貴さ	夏の体験ボランティアでＳ老人センターを利用するお年寄りへのボランティア活動を通して信頼関係の大切さを学んだとする生徒の作文。	p.p.125-128	
中学生の新しい道 3	3	十五歳	2－（５） 他に学ぶ、広い心	進路学習で社会福祉センターでの視覚障がい者の森さんと盲導犬ビブとの出会いで自分の生き方や進路について真剣に考え始める15歳の山川駿君の姿。	p.p.58-62	「視覚障がい」「盲導犬」の記述
		重なりあう手と手	2－（６） 他者への感謝	台風による強風と大雨、洪水で避難生活を余儀なくされた真也に災害支援物資が届けられたり、遠方から救援ボランティアがかけつけてくれ、その力添えや励ましで自宅に戻る	p.p.63-66	

中学校道徳副読本における福祉問題

			ことができたことをきっかけに災害地でボランティアに取り組む人を支える募金活動を行うようになった真也達の取り組み。		
	ゴンさんの苗	3－(3) 生きる喜び	ヒマラヤの自然環境の厳しい食糧不足の村の様子をテレビで見て、渡航を決意し、3年の年月をかけてヒマラヤでの水田づくりを村人の協力の中で実現し、米を収穫するという偉業を成し遂げた74歳の黒田権助さんの姿勢。	p.p.81・84	
	加山さんの願い	4－(2) 公德心	知り合いの佐藤さんの孤立死をきっかけに、訪問ボランティアをはじめた加山さんが、訪問先の田中さんや中井さんとの出会いから、活動のあり方やその姿勢について考えている様子。	p.p.103・107	
	後悔	4－(3) 差別偏見	路上生活をしていたホームレスの男性に暴行を加えて3名の中学生の少年が傷害容疑で逮捕された事件から、誰でも人として生きてきたことに敬意を払われる資格があることを説いた文。	p.p.108・112	

・静岡教育出版社

静岡県道徳副読本 中学心ゆたかに1	1	二個のあめ玉	2－(2) 思いやり	身体障がい者スポーツ大会のためにS中学校の福祉委員会が生徒会活動として、募金をしたお金で参加者にあめ玉2個と手紙を送ったり、後片付け、車いす介助等お手伝いをし、お互いの手助けについて実感する様子。	p.p.94・98	
		好きで年をとったのじゃない	2－(2) 思いやり	学校の福祉活動で特別養護老人ホームで実習を行い、入所者とのふれあいから色々なことを学ぶ少年の姿。	p.p.102・106	「特別養護老人ホーム」の記述
		心の目	4－(2) 公德心・社会連帯	目の不自由な高齢者に頼まれ、代わりに孫に電話をかけてあげる中で、何がその人のためになるかを考え、行動や態度に表すことの大切さを思う少女の姿。	p.p.120・123	
静岡県道徳副読本 中学心ゆたかに2	2	同級生・岡山君の八年後の証言	2－(3) 信頼・友情	1986年、同級生のいじめで鹿川裕史君が自ら命を絶ち、東京高裁で学校とA・B君の責任が認定された事件から8年後のクラスメイト達のインタビューによる証言。	p.p.16・21	
		シルバーシートがなくなる日まで	4－(3) 公正・公平	シルバーシートがないと、それをきっかけにしないと席を譲ることのできない事実や人の心の醜さや、本来の美しさについて考えるわたし。	p.p.31・33	
		たんぼば作業所	4－(5) 勤労・社会への奉仕	作業所に就職し、利用者との関わりでの葛藤の中で、やり甲斐を感じ始める沢村さんの姿。	p.p.46・50	「作業所」の記述
		トットちゃん とトットちゃんたち	3－(3) 人間愛・生きる喜び	アフリカで病気や障がい、飢餓で死を迎えるなど様々な厳しい境遇にさらされている子ども達の現状についての黒柳徹子さんによるメッセージ。	p.p.58・63	
		施設訪問で 得たもの	2－(2) 思いやり	障がい児施設に3年5組のクラスメイトやK先生と訪問し、利用者と一緒に散歩する中で多くを学ぶわたしの姿。	p.p.114・117	

静岡県道徳副読本中学心ゆたかに3	3	やさ 「優しさ」という名の「差別」	4－(3) 公正・公平	認知症の祖母と孫達との音楽や卓球を通じての心の交流。	p.p.12-15	
		二つのきまり	4－(1) 遵法の精神	東京ディズニーランドの人気スリルライド「ビッグサンダー・マウンテン」の乗車をめぐる車椅子に乗ったゲストと担当者とのやりとり。	p.p.16	
		これからがんばるんだ	1－(5) 向上心・個性の伸長	生まれてすぐ両親と離れ、乳児院、児童養護施設で生活する自分の境遇を見つめながら、「立派に生きていく」とする中学3年生の西誠さんの力強い姿勢。	p.p.32-35	「乳児院」「児童養護施設」の記述
		震災の中で	4－(5) 勤労・社会への奉仕	阪神淡路大震災に遭遇した木曾信介さんが避難所での弁当配りや話し相手等のボランティア活動を通して多くの経験や学びを得る姿。	p.p.40-43	
		卒業文集最後の二行	4－(3) 公正・公平	30年あまり前の6年生の時、同じクラスのT子さんへのいじめに加担して、ひどい仕打ちをし、卒業文集に「今いちばんほしいのはお友達です」と書いていたT子さんの文集を読むたびに涙をこぼし、謝罪してもしきれないと、今も心を痛めるわたしの思い。	p.p.48-53	
		お母さん、ぼくが生まれてごめんなさい	2－(2) 思いやり	母と脳性マヒのある息子との間で、生まれてきたことを詩で詫びつつ、母に感謝し、母をいたわり亡くなっていった息子と、息子に詫び感謝する母との間の愛情によって結ばれた家族の深い絆。	p.p.59-64	
		愛のビザ	4－(10) 国際理解と親善・人類愛	第二次世界大戦時、ポーランドからナチスの手を逃れて日本通過のビザを要求しているユダヤ人に領事の権限で発行し、多くの人を救った杉原千畝の決意と行動。	p.p.82-84	
		おばあさんからのプレゼント	3－(3) 人間愛・生きる喜び	障がいだと思うように身体が動かず、就職もうまくいかなかったわたしが、踏切で1人の老女を助ける中で、自信を取り戻して頑張ろうとする姿勢。	p.p.102-105	
		宮崎の空に向かって	4－(6) 家族愛	寝たきりで認知症の祖母の介護をめぐってのわたしや家族、親戚達との関わり合いや心の動き。	p.p.137-	「家庭奉仕員」の記述

・京都府教育委員会（指導内容は無し）

京の子ども明日へのとびら	中学校編	長寿国・日本とは？		山折哲雄氏による日本の高齢化における、人間の老いや生き方についての仏教や文化との関わりからの解説。	p.p.4・7	京都に関わりのある著名人が中学生への生き方の応援や生きていく上で考えたいテーマを上げて掲載
		“生きている”をよく見て考えよう		中村桂子氏による生命科学の立場からの命のつながりや大切さについてのメッセージ。	p.p.12-15	
		人道の輝く世紀を目指して		上田正昭氏による人権文化、いのちの尊厳を自覚し、人間が人間らしく、自然と調和して幸せな暮らしを営んでいくこと、自然や様々なものに生かされて生きていることの大切さについてのメッセージ。	p.p.16-19	
		命のたいせつさ		小学生の時、同級生のNちゃんがいじめにあり、先生の一言でいじめはなくなったが、結	p.p.72-75	

中学校道徳副読本における福祉問題

			局自分が何もしなければぬまま、やがて肺炎で亡くなったNちゃんへの思いについての中学生の作文。 平田眞貴子氏による応援メッセージを掲載。		ことを書いた作文。
	弟とともに		養護学校に通う言語障がいのある弟をめぐる家族との心のつながりについての中学生の作文。 徳川輝尚氏による応援メッセージを掲載。	p.p.76-77	京都府の中学生が夢や願いをもって自分や周りのことを書いた作文。 「言語障がい」の記述
	おばあちゃん		夏休みに一緒に過ごしたのを最後に亡くなった祖母に対し、昔の思い出を振り返りながら、何かもつとしてあげたかったという思いにふける中学生の作文。 山折哲雄氏による応援メッセージを掲載。	p.p.78-79	京都府の中学生が夢や願いをもって自分や周りのことを書いた作文。
	平和のためにできること		NGO「国境なき医師団」の「子どもレポーター」としてカンボジアの内戦後の貧困や人身売買の惨状を知り、学校で募金活動を活発化させたり、地雷廃絶キャンペーンとして紙芝居上演活動を始めた生徒の作文。 千玄室氏による応援メッセージを掲載。	p.p.88-91	京都府の中学生が夢や願いをもって自分や周りのことを書いた作文。

表 3－2 道徳副読本の指導内容

指導内容		単元数
1	(1) 望ましい生活習慣	2
	(2) 希望・強い意志	1 2
	(3) 自律の精神、自主、誠実、責任	5
	(4) 真理・真実・理想の追求	4
	(5) 自己理解と向上心・個性の伸長	4
2	(1) 礼儀・適切な言動	1
	(2) 人間愛・思いやり	3 3
	(3) 信頼・友情	5
	(4) 異性の理解と尊重	0
	(5) 個性の尊重、寛容・謙虚	7
	(6) 感謝・貢献	6
3	(1) 生命の尊重	1 0
	(2) 自然愛・畏敬の念	4
	(3) 人間理解と生きる喜び	1 0
4	(1) 遵法、社会秩序の向上	3
	(2) 公德心、より良い社会の実現	1 3
	(3) 正義、公正・公平	2 7
	(4) 集団の意義、集団生活の向上	1 0
	(5) 勤労、社会奉仕、公共心	2 1
	(6) 家族愛、充実した家庭生活	1 1
	(7) 愛校心、校風樹立	1
	(8) 郷土愛・先人への尊敬	4
	(9) 愛国心・伝統の継承と文化の創造	0
	(10) 国際理解・人類愛	1 7
指導内容なし		8

4. 課題と提言

以上のように福祉問題に関して、抽出し、整理した内容から、その現状や課題について提起しておく。

- ①同じ内容でも編者の意図によって出版業者により、指導内容が異なるものがある。
- ②同じ内容でも出版業者によって取り扱う学年が異なるものがある。
- ③同じ内容でも出版業者によって主題の異なるものがある。
- ④小学校の道徳副読本でも扱われている内容のものがある。
- ⑤施設でのボランティア活動をきっかけにして、日々の生活を見直そうとする内容のものがある。
- ⑥「授産場」「デイサービスセンター」「老人保健施設」「特別養護老人ホーム」などの社会福祉に関連する専門的な用語を使用しながら、施設訪問を通じての利用者の生活や専門職の仕事から学びを深めさせようとするものがみられる。
- ⑦福祉をいくつかの領域の中のひとつのテーマとして設定して、そこにいくつかの題材を盛り込んだものもみられる。
- ⑧京都府では教育委員会が独自に資料を開発しており、小学校と中学校で併せて4分冊の形で、中学校はそのうちの1冊として発行している。小学校と共に、他社が刊行している道徳副読本と併用して使用するケースもあるということである。小学生用の副読本でも同様であるが、京都にゆかりのある著名人のメッセージを載せて、出張授業をしてもらったり、京都府の中学生の作文を掲載し、考えさせる授業展開を想定した資料である。
- ⑨愛知県では、県内の幹部教員を中心に独自に編まれた副読本を開発して、県の外部団体から発行し、各学校に使用を促している。
- ⑩静岡県でも、県内の教員や学識経験者等を中心にして編まれた副読本を開発し、県の外部団体から発行し、各学校に使用を促している。
- ⑪新潟県では、県内の校長会を編者として、震災をはじめとする地域のボランティア活動等が紹介した副読本を開発している。
- ⑫千葉県でも、県内の校長会を編者として、地域の福祉施設でのボランティア活動等を内容として取り上げて学習を深めさせようとする副読本を開発している。
- ⑬先人達の活躍を例にあげつつ、今後の自己の生き方や姿勢について考えさせようとするものがみられる。
- ⑭近年のいじめ問題の多様化、深刻化を反映して、携帯電話のメールによるいじめの事例をあげているものがみられる。
- ⑮スポーツや芸能関係者等著名人による福祉援助活動に関する報告や経験談等がみられる。
- ⑯災害（地震・風水害・海洋汚染）をめぐる復興や回復のための相互の助け合いやボランティア活動に関して取り上げているものがみられる。
- ⑰副読本ではなく、郷土資料を積極的に発行し、道徳の授業への使用を促そうとする都道府県も散見された。
- ⑱挿し絵や漫画を使用しながら、高齢者への関わり方についての姿勢や態度について考えさせ

るものもみられる。

- ①⑨阪神淡路大震災をめぐるボランティア活動や相互の助け合いに関する内容を取り扱っているものが、各出版業者の内容に顕著にみられる。兵庫県ではそうした内容を重要な柱に据えつつ、来年度の使用に向けた兵庫県独自の中学校道徳副読本の作成を進めている。
- ②⑩「社会福祉協議会」と学校とのボランティアを通した関わりから、地域の安全や相互の協力、福祉の推進について考えさせるものがみられる。
- ②⑪「乳児院」「児童養護施設」「作業所」「デイサービス」での利用者の生活体験記を通して自分のあり方、生き方について考えさせ、学ばせようとするものがみられる。
- ②⑫「認知症」ではなく「老人性痴呆症」の用語を用いて取り扱われているものがある。
- ②⑬「家庭奉仕員」の用語を用い、介護を通じた家族の関わりや心の動きから学びを深めるものがみられる。
- ②⑭「視覚障がい」「聴覚障がい」「言語障がい」「盲導犬」「パピーウォーカー」「手話」「点字ブロック」「バリアフリー」「ストレッチャー」といった用語が取り上げられ、障がいのある人の生き方やそうした人々との関わりから自らの生き方や街づくり、命の大切さについて考えさせるものがある。
- ②⑮著名な宗教家による貧困や病気で苦しむ人々への社会奉仕活動について取り上げているものがみられる。
- ②⑯指導内容として「人間愛、思いやり」「正義、公正・公平」「勤労、社会奉仕、公共心」「国際理解、人類愛」を設定するものが、他に比べて非常に多く取り扱われている。
- ②⑰指導内容として「自律の精神、自主、誠実、責任」「個性の尊重、寛容・謙虚」等を設定し、自己のあり方や生き方について考えさせるものもあるが少ない。
- ②⑱指導内容として地域福祉の推進、福祉のまちづくりを考える上で、「郷土愛」を設定するものが少ない。
- ②⑲指導のねらい以上に福祉について学び得ることができる内容となっているにもかかわらず、それが生かされていないものがある。
- ③⑩国際問題（紛争、貧困、差別等）に関して、その惨状や救援活動などを取り上げ、自分にできることを考えさせようとするものがみられる。
- ③⑪今回の学習指導要領の改訂では、総則第一の二において従来のボランティア活動や自然体験活動に加え、道徳の時間での職場体験活動の文言が入り、生徒が職場体験を通して働くことの尊さや意義について道徳的価値の自覚を深める指導が求められることとなった。そうした中で、副読本の指導内容と連動させて福祉現場体験活動等から学びを深めさせることが可能となるものもある。

道徳で用いる教材・資料は「道徳的価値の自覚、自己の生き方についての考えを深める上で効果的なもの」⁽²²⁾で、「人間の弱さやもろさに向き合い、生きる喜びや勇気を与えられる」⁽²³⁾もの、そして、「道徳的価値や自己の生き方についても様々な視点や角度から考えさせるためには、学習活動は多様であることが望ましい。そのような学習活動を可能にするような資料で

あること」⁽²⁴⁾が求められるとされる。しかし、現状では中学校道徳副読本においても、その内容について中学校教師用の指導書を含め、各出版業者・団体によって質量共に偏りがあると言わざるを得ない。

今後、一般的な価値観や態度の形成を目指す道徳副読本と福祉教育での指導やそこで使用される副読本との指導内容や指導方法についての明確化・具体化が求められる。

また、学校行事や特別活動との関係においても、資料の取り扱い方、位置付けについて配慮する必要がある。

福祉教育の観点から、今後更なる内容の分析、検証を進めたい。

-
- (1) 塩野谷祐一『私の構想 トマス・ヒル・グリーンと福祉国家』
「季刊 家庭経済研究第 69 号 特集 住宅」家庭経済研究所、2006、p81
 - (2) 新村出『広辞苑』岩波書店、2008、p1982
 - (3) 戸坂潤『戸坂潤全集第四巻』勁草書房、1966、p62、p268
 - (4) 文部科学省『中学校学習指導要領解説道徳編』日本文教出版、2008、p25～p29
 - (5) 文部科学省、同上書、p31～p32
 - (6) 岡田渥美『老いと死—人間形成論的考察—』玉川大学出版部、1994、p308
 - (7) 文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房、2008、p112～p115
 - (8) 文部科学省、前掲書（4）、p15
 - (9) 文部科学省、前掲書（4）、p15
 - (10) 文部科学省、前掲書（4）、p15
 - (11) 文部科学省、前掲書（4）、p16
 - (12) 文部科学省、前掲書（6）、p112
 - (13) 宇田川宏『生きる意味を学ぶ道徳教育』同時代社、1998、p49～p50
 - (14) 宮脇陽三『道徳の本質と教育』
村田昇・宮脇陽三編「現代道徳教育の研究」めいけい出版、1984、p23～p24
 - (15) 岡村重夫『社会福祉原論』全国社会福祉協議会、1994、p68～p92
 - (16) 岡村、同上書、p97～p99
 - (17) 文部科学省、前掲書（4）、p98～p99
 - (18) 新村、前掲書（2）、p244
 - (19) 下程勇吉『新版教育学小事典』法律文化社、1984、p324
 - (20) 杉原誠四郎他『2010 年度版必携学校小六法』協同出版、2009 年 2 月、p21
 - (21) 杉原、同上書、p358
 - (22) 道徳教育活動研究会『道徳』東洋館出版、2011、p39
 - (23) 道徳教育活動研究会、同上書、p39
 - (24) 道徳教育活動研究会、同上書、p40

